

2010 年度成蹊大学アジア太平洋研究センター主催連続講演会

『映像の可能性－文化を記録するとは何か』（全3回）

第2回

共生の技法としての映像制作

－カメルーンの「森の民」とともに－

2010年度、成蹊大学アジア太平洋研究センターでは、映像制作に携わる先生方をお招きして、文化を記録する媒体としての映像を考えます。事前申し込み、参加費は不要ですので、ふるってご参加ください。

日時 : 2010年10月23日(土) 16:00～

場所 : 成蹊大学 9号館301教室

講演者 : 分藤 大翼

(信州大学・准教授)

上映作品 : 『*Wo a bele* -もりのなか』(30分)

『*Jengi*』(20分)

***詳細は裏面をご覧ください。**

第3回講演会予定

日程：2010年12月4日(土) 15:00～

場所：成蹊大学 3号館101教室

講演者：弘 理子(映像ディレクター)

上映作品：『築地市場大百科』

2008年(60分)

主催：成蹊大学アジア太平洋研究センター(CAPS)
〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
Tel: 0422-37-3549 Fax: 0422-37-3866
E-mail: caps@jim.seikei.ac.jp

【上映作品紹介】

『Wo a bele ーもりのなかー』 2005年制作 (30分)

本作品は衛星放送SKY PerfecTV!で放映されたシリーズ番組「シネアストの眼」の一本として制作したものである。この企画は、シネアスト（映像作家）が“自分”と“自分の世界”についてのドキュメンタリー作品を制作するというものだった。

したがって本作は、人類学者である作者自身と、研究対象であるカメルーン共和国東部州に暮らすバカ（Baka）族を対象とした作品となっている。

この作品は、研究論文において背景に退いている現地調査の経験を前景化させることを目指している。それは現地の人々の日常を共に生きるという経験であり、人々がどのような光と音の中で生きているのかを感じ、人々の声や表情、しぐさに魅せられるという経験である。

ー上映歴ー

第28回国際ドキュメンタリー映画祭Cinéma du Réel パリ（フランス）2006.3.

第3回モスクワ国際映像人類学映画祭 モスクワ（ロシア）2006.10 他多数



『Jengi』 2008年制作 (20分)

アフリカ大陸の中西部、カメルーン共和国東部州の熱帯雨林にはバカ（Baka）という狩猟採集民が暮らしている。人々は森には数多くの精霊が存在すると考えており、なかでも「ジェンギ（jengi）」という精霊を最も大切にしている。

本作品は、バカ族の語りをもとに、人々がジェンギ結社への加入儀礼を執りおこなう様子や、ジェンギの登場する歌と踊りを描いている。そして、人々の言動から、バカ族にとって

ジェンギとは何なのかということをはっきりとしようとしている。人類学的な調査に基づいて制作された記録性の高い作品であり、民族誌映画（ethnographic film）とも呼ばれる映像人類学的な作品である。

ー上映歴ー

第9回ゲッティンゲン国際民族誌映画祭 ゲッティンゲン（ドイツ）2008.5

デリー国際民族誌映画祭 デリー（インド）2008.11 他多数



《講演者プロフィール》

分藤大翼 Daisuke BUNDO



京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
博士課程修了。

専門は映像人類学、アフリカ地域研究。

1996年よりカメルーン共和国の熱帯雨林地域に暮らす
Bakaという狩猟採集民の調査研究を行っている。

2002年より調査集落において記録映画の制作を開始。

主な共著は

『森と人の共存世界』（京都大学学術出版会 2001）、

『見る、撮る、魅せるアジア・アフリカ！ー映像人類学の新天地ー』（新宿書房 2006）、

『森棲みの社会誌』（京都大学学術出版会 2010）、『インタラクションの境界と接続』（昭和堂 2010）、

『可能性としての文化情報リテラシー』（ひつじ書房 2010）。

映像作品は『Wo a bele ーもりのなかー』（2005）、『Jengi』（2008）。

現在、Baka族の食文化をテーマとした『jo joko』を編集。

ブログ『Poche Verte ～緑のポケット～』（<http://jengi.blog122.fc2.com/>）でアフリカや信州に関する情報を発信している。

現在、信州大学全学教育機構・准教授。